

# 府民の森くろんど園地園地探鳥会 (第4土曜日両園地通算第301回)

令和7(2026)年4月25日(土)9:30~14:30頃 日本野鳥の会大阪支部  
友田武・神戸徹・吉山 晃・高田伸二・平 軍二 (090-6901-1425)

ほしだ園地・くろんど園地両探鳥会の担当リーダーとして、高田伸二さんをお願いしました。むくどり通信では5月発行号からになりますが、3月からご協力をお願いしています。

## I 交野の鳥シリーズ (147) センダイムシクイ

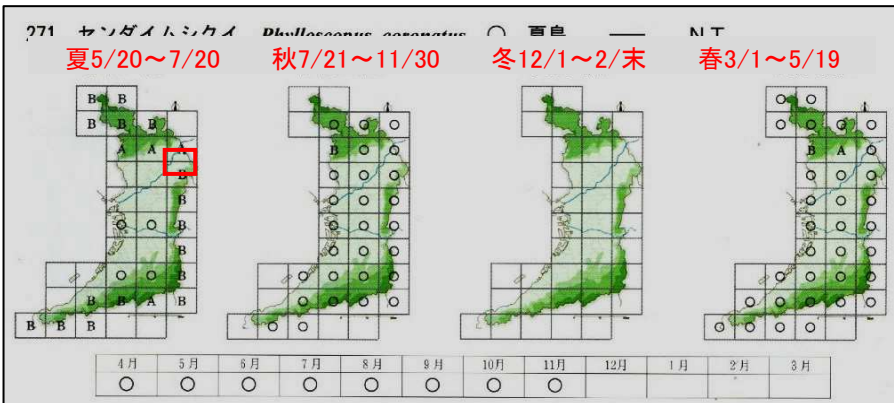
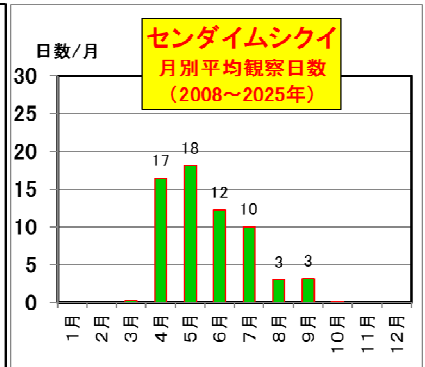
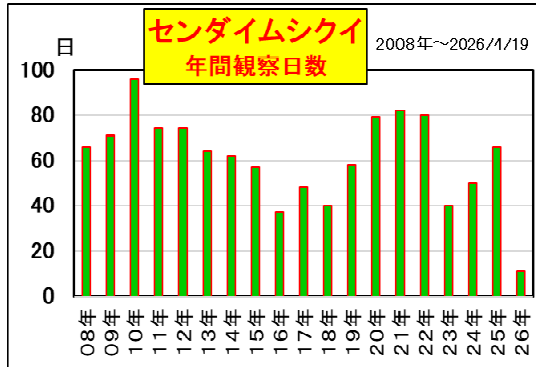
一週間前の4/19交野野鳥の会で、「くろんど園地早朝探鳥会」を開催されました。早朝でもあり越冬地の南国から到着したばかりと思われる夏鳥、オオルリ・キビタキ・センダイムシクイ・ヤブサメなどのさえずりが良く聞かれたとのことでした。くろんど園地を通過するのみの鳥を含め、今週はピークの時期かと思えます。オオルリについてはこれまで何回か特集していますが、声はよく聞くものの写真で紹介することが少ないセンダイムシクイについて、昨年4月の探鳥会で写された、渡邊信義氏の写真で紹介します。

渡邊信義氏 20250424 →



## I ② 交野市センダイムシクイ (友田武氏集約) →

友田武氏は交野野鳥の会会員の方が、交野市内で観察された野鳥について、2008年から毎日集約されています。センダイムシクイの年間観察日数は右中図より40日~100日、月別では右図より、4月~9月に観察されています。6月~7月観察できるので、繁殖していることがわかります。

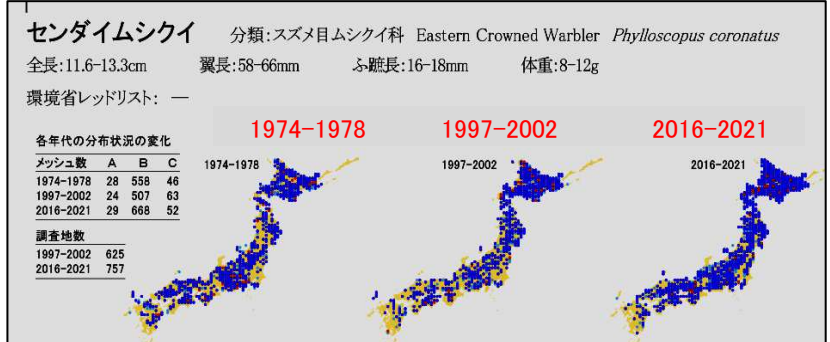


## I ③ 大阪府センダイムシクイ ← 大阪府鳥類目録2016

左図の通り大阪府内でのセンダイムシクイは春秋の渡りの季節に府内全域で、夏の繁殖期は周囲を取り巻く山地で確認されている。  
夏5/20~7/20赤枠Bは2006/5/27にくろんど園地探鳥会でさえずりを聞いた記録が載っている。

## I ④ 日本の繁殖分布図 全国鳥類繁殖分布調査2016~2021 (鳥類繁殖分布調査会2021年)

九州以北の全国に夏鳥として分布1000m以下の林に生息する。記録メッシュ数は1990年代と比べ増加しており、1990年代と2010年代の比較可能な現地調査の記録を見ても、625地点→757地点へと増加していた。



# I ⑤センダイムシクイ

世界の繁殖越冬分布図

真木・大西 日本の野鳥590

平凡社 2000年

日本と朝鮮半島～中国北東部(旧満州)に繁殖地があり冬期はインドシナ半島～マレー半島、スマトラ島などで越冬する。

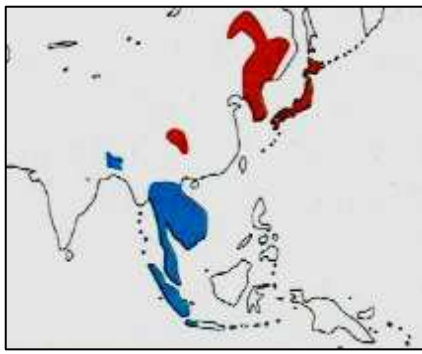


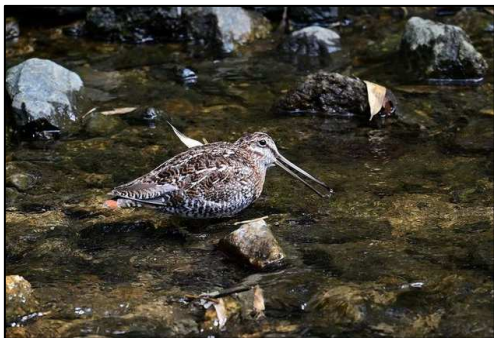
写真 ↑上 ウソ(イロハモミジ)  
↓下 ヒレンジャク(ラクウショウ)  
(小河敏之氏)

## II ① 先々月2/28 くろんど園地探鳥会

歩き始めてすぐの私市住宅地で上空を飛びまわるイワツバメの群、そして木々にはシジュウカラ・エナガが見えました。上りのハイキング道で鳥は出なかったが、園地に入ってくろんど池との分かれ道のイロハモミジにウソ、交換広場のアキニレにもウソがいて、実をついばんでいた。途中、貯水ダム周辺のオオバヤシャブシは、例年マヒワ・アトリがきている所であるが、鳥はいなかった。今日の資料に入れたヒレンジャク、八つ橋周辺のラクウショウやコナラの枝先にいる所を見たが、遠くで見えにくくカメラの方の映像を確認してヒレンジャクとした。園地内のあちこちでツグミ10羽ぐらいの群が見られたが、園内のカキノキに実が残っている所があるなど、例年より冬鳥の少ないことを示していた。モズ・ムクドリ・アオジ・セキレイが出なかったものの、ウソ・ヒレンジャクに助けられ探鳥会を終えた。



↑小河敏之氏 アオシギ 吉山晃氏 ↓



## II ② 先月3/28ほしだ園地探鳥会報告

今日の探鳥会はアオシギが観察できるかどうか、また、ハヤブサはいるかどうかポイントであるとして、スタートした。

「星の里いわふね」の上流、山地に入るとすぐの天野川に、今日の探鳥会の主役の鳥、アオシギがいた。ほとんど動かずじっとして、川の石の景色に溶け込んでいた。2羽いるとのお聞きしていたが、今日観察できたのは1羽のみでした。

ほしだ園地の主ともいえるハヤブサ、園地事務所「ピトンの小屋」について飛び回っており、3羽いたようです。1羽のハヤブサが「お立ち台」と呼んでいる「哮ヶ峰」中段にある棚石の近くに座っていたことなどからゆっくり観察できたこと、これまで星のブランコへ行っても鳥が少なかったことから、昼食もハヤブサを観察することにした。

ハヤブサ1羽が棚石近くに座りこんだままで、水浴び後に羽を乾かすかのように、羽を広げたままうつぶせになり動かなかったので、ハヤブサ観察を終了し帰ることになった。

アオシギは帰りも午前とほぼ同じ所にいたが、今度はしきりに水の中をつついて餌を探っていた。文献に「ミズ類、水生昆虫の幼虫、小型の甲殻類、貝類などを捕食」とあったが、アオシギが昆虫類？を捕まえたようで、くちばしを開けた姿を吉山晃氏が写されていた。

← 吉山晃氏 ハヤブサ三態 小河敏之氏 ↓ (2枚)



